

平成29年度評価（西町）

①利用者との関わりの中で充実を図る。

入浴が不可能な方については、NSに伺い、適宜清拭を行うことができていた。口腔ケア、機能訓練は十分できてはいなかったが、歯科衛生士や訓練指導員のアドバイスを受け入れ、さらなる意識と技術の向上に努めたい。

ふれあいの時間は西町単体で作ることが難しかった。日常の介護の中で声かけに努め、1対1で関わる時間を大事にしていきたい。保清と環境整備も十分できななかったが、爪切りについてはチェック表を作ることにより定期的に行うことができるようになったので、今後、環境整備でも同様にできるようにしたい。

②家族との信頼関係を深め、協力を得ながら、それぞれの利用者の希望、思いをできるかぎり叶えられるよう努める。

西町新聞は継続して発行することができた。故郷訪問や自宅への外泊も少数ではあったが実施することができ、本人、家族に喜んで頂くことができた。ただ、一部、計画が十分にできていなかったことがあったので、今後は他の職域と連携し、計画に不備がないようにしたい。家族の面会時には利用者の様子を話すよう努めていた。今後は家族から故郷訪問など、利用者本人の思いにつなげられるための情報も伺うようにしたい。

③職員一人一人のスキルアップを図り、苑全体で協力をしながら看取りケアの充実を図る。

ミーティングの時間があまり取れない中、日頃から職員間で意見交換を行い、情報の共有に努めたが、苑内研修後のフォローなど、うまくできていない面もあった。今年度は特に前半、看取りになられる方が多かったが、スタッフが協力し合い、乗り越えることができた。他のユニットの利用者が静養室に入られた際にも、情報を共有し、連携して看取りケアに関わることができた。今後はもっとグリーンケアについての意識を高められたらと思う。